

ひなたぼっこ通信

2017年
8月号

ケアハウスから

「七夕飾り」2階

♪「七夕の葉さらさら、軒端にゆれる♪長いと思っていた一年も、もう半分が過ぎ、七夕祭りの日を迎えました。ケアハウスにも笹が飾られ、七夕祭りの雰囲気を感じられています。



利用者の方々に「短冊にお願いを書いてください。」とお頼みすると、「何書いてらいいんだえ?」「願いなんて、何にもないわえ!」などとおっしゃりながらも、和気あいあいとしたムードに包まれて、多くの方の、願いを込めた短冊飾りが完成しました。

短冊には「元気に過ごしたい。」「自分の足でできるだけ歩きたい。」など、様々な願い事が書かれています。自分らしく、元気に過ごしたいというのは、誰しもが願うことですね。ケアハウスでの日々が、穏やかに豊かなものになりますように。私たち職員一同、そのお手伝いをさせていただきますと思っています。

七夕が過ぎ、梅雨が終わると夏本番です。皆さんの願いが、夏の星空に届いていますように。(F)

ということ、数ある願いから、その一部を紹介します。

- ・家ではできなかったけど、七夕のお祝いが久しぶりにできてうれしい!
- ・クウちゃんの元気な姿を見たい!
- ・あと一度でいいから、会いたい!
- ・元気ですごせますように!
- ・外国へ行きたい!
- ・天神様!体の痛みを取ってください!
- ・家へ帰りたい!
- ・全職員の、「桜梅桃李」それぞれの入所者に合わせている接し方に、老いゆく身の安心と感謝の気持ちの日々強くなっています。
- ・目をお守りください。健康第一!
- ・いのちある限り!
- ・此の度は元気に過ごしました。

これらを二度三度読み返すと、何か利用者の皆様の願いが響きあって、一枚ずつ読むのとは違った深さを感じます。そして、経験なさって来た歳月の重さも感じます。それぞれの年月を経ての願いの花束のようですね。そんな花束を眺めていると、限らない愛おしさがこみあげてくるのはどうしてでしょう。

宅幼老所から

「七夕」

7月7日は七夕でしたね。当日は利用者の方みなさんで作った七夕の飾りを眺めながら、織姫様と彦星様のお話をしました。昼食は、七夕の日の特



「花の里」

7月の良く晴れた日に、宅幼老所とグループホーム合同で富士見高原リゾート「花の里」のオープン記念に招待していただき、お出かけしました。今年はカートに乗って、約30分間花々の間を縫って回りました。みなさまの顔に微笑みが浮かび、あちこちを指さしては「かわいい花だね!」と言われました。

花には人の心を豊かにする力があるのでですね。カートから降りたとき、どなたもとても良い顔をしていらっしゃいました。



別メニューで、写真のように星形のフライドポテトとチキンサラダの付け合わせ、白身魚のフライ、大根の煮物、2色の七夕そうめんをいただきました。夏の暑い日にさっぱりとしておいしかったです。利用者様も、「豪華だね!」と、とても喜んでくださいました。

「七夕」ケアハウス1階

7月7日、ケアハウスの1階でも七夕まつりを行いました。笹を用意してもらい、レクリエーションの時間に利用者様スタッフ共に、笹につける飾りを作成したり、短冊に願い事を書いたり、作成した飾りや短冊を、笹につけたりしました。とても素敵な七夕飾りができました。

皆さまそれぞれの願いごとがかないますように。七夕まつりは年に一度です。また来年も皆様と、楽しい七夕祭りができたらいいなあと思いました。



グループホームから

「七夕 星に願いを」 1階

折しも、七夕当日は、富士見中男子生徒さん2名の体験実習の日でした。さっそく入居者の方の一番の感心事は彼らの個人情報なのです。

「家ではお年寄りと一緒になの?」「何歳?」、孫かね、曾孫だね」等の質問、そして、しばらくすると又同じ質問の繰り返し。その都度笑顔で答える素直さが印象的でした。将来が楽しみです。

さてお昼は皆さん大好きなちらし寿司です。入居者の方が合わせ酢を振り入れ、うちわで扇ぎ、

手際よく具を混ぜる様子

子に生徒さん感心しきり。だって長年の経験がありますもの、お任せを!

その後一緒に何曲か歌い、一人一人握手で若い元気をもらい「又来て下さいね」とお別れしました。おやつはホットケーキにブルー

ベリージャム、杏仁豆腐のフルーツ添え、美味しいねと頂きながら、さて肝心の願い事は?

「みなさんが元気で楽しく暮らせますように」と周りを気遣うものから、現実的に「まぐろ寿司、すいかを食べたい」といった内容もありで、さて皆様の願い事は叶いますことやら?..?

彦星さん、織り姫さん、年に一度会えるという伝説にあやかり、お願い事どうぞよろしく!..!

「たなばた飾り」 2階

7月7日は、七夕ということので、ご利用者様に飾り付けをして頂きました。笹につける飾りも一緒に作り、とても楽しんでました。

願い事には、「スイカが食べたい」、「お寿司が食べたい」と、「食」についての希望が多かったように思います。もう少し暑さが落ち着いたら、外食の企画を立てて、外に行きたいですね。みなさんの願いが叶いますように。



編集後記「たなばた考」

今月、すべての記事は「七夕」に関するものでした。以前、七夕をなぜ「たなばた」と読むのか不思議で調べたことがあります。

「七夕」はもともと字の通りに「しちせき」と読んでいたそうです。そこで、織姫伝説です。昔の政治といえば、神様への儀式がその中心でした。7月7日は、織姫の故事にちなんで、天の川に見立てた清流に棚を張り出して、そこで女官に機織りをさせ、神様の衣を織ったというのです。「棚で機織り」→「たなばたおり」がいつしか「たなばた」となって、七夕の字だけが残ったということです。知ってしまえば、あっけないほどに分かりやすい語源でした。

ついでながら中国では、奇数を尊び、3月3日や5月5日など、奇数の重なりを節句としました。季節の替わり目に、作物の豊穡や健康などを願って供物をささげたのが始まります。だから節句も、もともとは節供と書きました。

読み方や、あてる字は時代とともに変わります。変わらないうちは切ないほどに健康や幸せを願う人々の気持ち、ということころでしょうか。

放課後等デイに物品の寄付をお願いします!

絵本や紙芝居、遊具や楽器など、放課後等デイの活動に使えるものの提供をお願いします。簡易プールやハンモックなど体育関連も!ご一報を待っています。

発行 社会福祉法人ひなたほっこ

理事長 森 正明

〒3399-0211

富士見町富士見1-1650-1

TEL 0266-61-2335

FAX 0266-61-2336